

スミス・ミッションセンター
平和の実現 WG 主催講演会

ガザ・パレスチナ 医療支援の現場から

2023 年 10 月 7 日のイスラエルによるガザ地区への軍事侵攻、そして大規模な虐殺行為が始まって 2 年が経ちました。この間に爆撃による死者数が確認されただけで 7 万人を超え、さらに医療関係者やジャーナリストを狙った殺害、食料支援トラックの搬入阻止による餓死者の増加など、明らかに民族絶滅をねらった多面的なジェノサイドが行われてきました。10 月の合意でイスラエルとイスラム組織ハマスとの停戦協議が進み、ガザは和平実現へ向けて前進しましたが、これからの状況は予断を許しません。

一方、ヨルダン川西岸や東エルサレムでは、狂暴化する入植者とイスラエル軍により 1000 人を超える犠牲者と新たな入植者の拡大でまさに「第二のガザ」になりつつあります。

北海道パレスチナ医療奉仕団団長の猫塚義夫先生から、現地の状況についてご報告をいただきます。

講師 猫塚 義夫 氏 (北海道パレスチナ医療奉仕団 団長)

医師。札幌生まれ。1973 年に札幌医科大学卒業後、北海道勤労者医療協会に入職。以後、米国留学を含め脊椎外科と膝関節外科を中心とする整形外科医として診療と臨床研究を進めてきた。同時に学生時代から抱いてきた社会進歩への志を実践した。障害者へのボランティア活動に始まり、「医療 9 条の会・北海道」幹事長（現、共同代表）となりつつ、2010 年に「北海道パレスチナ医療奉仕団」を立ち上げ、現在に至る。著書に『平和に生きる権利は国境を超える パレスチナとアフガニスタンにかかわって』（清末愛砂と共著、あけび書房、2023 年）。



日時

11/14 (金) 14:50~16:30

会場

北星学園大学 A503教室

入場無料／申込不要

主 催：北星学園大学・北星学園大学短期大学部 スミス・ミッションセンター
問合せ：北星学園大学 総務課（TEL: 011-891-2731）